



令和5年6月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

午前中、0歳児室に行くと、一人遊びをしている子、保育士にあやされている子、仮眠をしようとしている子などがいて、同じ空間でも過ごし方は様々です。腹這いで遊べる時間が長くなってきた子は壁面の玩具に向けて腕を伸ばし、感触や動きを確かめるようにしきりに触れていました。胸がグッと上がることで視線も少し高くなり、見える景色が変わるとおのずと興味の範囲も広がるのでしょう。手の届くところは全部触ってみたいという思いが伝わってきて、しばらく傍で見守りました。一人遊びを終えると腹這いから仰向けになり、近くで担当保育士が他の子と触れ合い遊びをしている様子を見えています。先程までの集中した表情から体の力を抜いた表情に変わりましたが、遊んでいる時も手を休めている時も気持ちはリラックスしていて、保育士と他の子のやり取りを見るという間接的な形で遊びに加わりながらその時間と空間を楽しんでいる様子でした。

『リラックス』とは『心や体が張り詰めた状態にない』ことを言い表すのだそうです。保育園で過ごす子どもたちがこうであってほしいと願う姿はまさに『リラックス』であり、一人ひとりにとってどんな状態が最も心地良く、その子らしくいられるかを職員同士で話し合うことで適切な関わりを見出しています。楽しい気持ちばかりではなく、思い通りにいかないことによって生じる後ろ向きの気持ちも全て感情のままに表わしながら、心や体を解き放つことのできる園生活を送れるように心掛けています。

クラス懇談会では、ご家庭でのお子さんの様子、保護者の方の深い愛情、そして保育園への温かい眼差しに触れ、職員にとって保育の楽しさや素晴らしさを再確認する時間となりました。子どもたちの成長を保護者の皆様と喜び合えるよう、引き続き成長発達に見合った保育の充実を図っていきます。



	歯科検診	(全園児)
	内科検診	(全園児)
	眼科検診	(全園児)
	耳鼻科検診	(3・4・5歳児クラス)
中旬	身体計測	避難訓練

## 子どもと看護師のほっこりタイム

～看護師～

保育室に子どもたちの様子を見に行くと、看護師のもとへとやってきて体の痛い場所を探して教えてくれます。乳児クラスの子どもたちも、看護師は『怪我を診て治してくれる人』と分かっているようです。

2歳児クラスの子の「ここ痛いの、転んじゃったの」という言葉に「痛かったね『飛んでいけ』ってしようか」と返し「痛いの痛いの 食べちゃおう」と看護師が食べる真似をすると「食べちゃったの」と目を丸くして驚いています。「そうだよ。これで大丈夫かな」と言うと「先生、お怪我どんな味。すっぱい、甘い」と気になるようです。看護師が「う～ん、ちょっと苦いよ」と答えると「え～ 苦いの」と、眉間にしわを寄せて苦そうな表情をしています。看護師と言葉を交わすうちに気持ちが切り替わり、感じていた痛みもどこかに消えてしまったようです。

これからも子どもたちとのやり取りを大切にしながら、心と体の成長を喜び合える毎日を過ごせるように関わっていきます。





# 楽しさ発見 無限大 外遊びだーいすき



## 3歳児クラス（さくらぐみ）

児童遊園の木の幹に黄色い卵と黒っぽい虫がいました。「先生見て、これなんだろう」と興奮気味に保育士の手を引いてきた子と一緒に見ていると、他の子も集まってきました。観察しているうち「これテントウムシの赤ちゃんじゃないかな。本にあったもん」とクラスで見ていた図鑑絵本を思い出したようでした。「帰ったら本を見てみようか」という保育士の言葉に「早く帰らなきゃ」と周りの子も慌てて帰り支度を始めました。保育室に戻って図鑑絵本を見ると「これかな」「やっぱりテントウムシの赤ちゃんだ」と話し合う中で、児童遊園で見つけたのはテントウムシの卵とサナギだということが分かりました。

探索が大好きな子どもたちは、たくさんの虫に出会える季節を喜んでいきます。好きなものへの関心も一層広がってきているので、自然に触れる中での発見や関心に共感し、これからも一緒に楽しんでいきます。



## 4歳児クラス（すみれぐみ）

3歳児クラスの頃から氷鬼を繰り返して楽しんでいきます。以前は自分が捕まえたり、逃げるのに夢中でしたが、最近では友達の動きにも目を向けられるようになりました。捕まったらその場で氷になる（立ち止まる）のですが、そのまま走り続けている友達に「なんでタッチしたのに走っているの」と言う子がいました。言われた子は「だってタッチされたくなかったんだもん」と落ち込みます。周りにいた子たちにどうしたら良いと思うか相談すると「走る練習をして速くなればいいんだよ」と励ますような言葉が聞かれ、間もなく数人でかけっこが始まりました。落ち込んでいた子も保育士や友達に「速くなってきたね」と声を掛けられて嬉しそうです。

悔しい気持ちや落ち込んだ時、友達や保育士に寄り添ってもらうことで気持ちを立て直すことが出来るようになっていきます。誰かに助けてもらった、嬉しかったと感じる経験を積み重ねながら、友達との関わりを深めていけるよう援助していきます。



## 5歳児クラス（ひまわりぐみ）

友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じ、クラス全員で遊ぶ時間も増えています。「氷鬼じゃなくてドロケイがいい」「え～氷鬼がいい」「リレーもやろうよ」と意見がまとまらない場面もあり「全部はできないよね」「どうしようか」と話し合いが始まります。「ドロケイでもいいよ」という意見が出ると、早々に『『ろうや』がないとね」と足を使って地面に線を描き始める子もいますが、その横で「待ってよ、まだ決まってないよ」「氷鬼だってやりたいのに」と声が上がります。「みんな集まって」「このままじゃ始まらないよ」と子どもたちが改めて声を掛け合うことで、自分とは異なる思いも聞こうとする姿が見られます。ある子が「ドロケイが終わったら氷鬼をやるのはどうかな」と提案すると「それならいいよ」「リレーは最後にやろう」と話がまとまり、ようやくゲームが始まりました。

子どもたちの力だけでは思うように話が進まない場面もありますが、主張ばかりではなく友達の話を聞くことも大切にしながら、自分たちで物事を進めていく喜びや充実感を感じられるようにしていきます。

